

## 最近の不安定な米国株式・金利について 金利、株式の順で落ち着きを取り戻すと想定

2023年10月27日

### 足元の金利上昇・株価下落の組み合わせは多少整合性を欠く面も

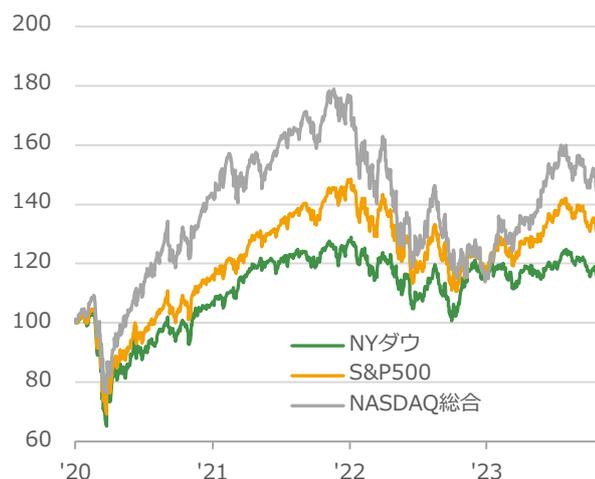
米国株式は8月から調整中で、最近では主要指数が1%超の下落となる日もあります。米国金利は10年国債利回りが一時5%台をつけるなど、上昇が急です。こうした状況を当社では以下のように考えています。

まず金利の上昇は、米国経済の堅調さを背景とした金融引き締め追加や長期化への懸念から生じていると考えられます。株式市場では金利の上昇自体を悪材料視するとともに、金融引き締めの長期化が将来の景気後退を招くリスクも警戒しているとみられます。また、中国経済の悪化懸念や地政学リスクの高まりも、株価の下押し圧力になっているでしょう。ただ、将来的な景気後退や中国経済の悪化、地政学リスクの高まりなどの各懸念は、通常であれば金利低下要因になるものです。したがって最近の米国株式・金利は、それぞれが悲観的な見方に偏っており、やや整合性を欠く面があるように思われます。

今後は、金融引き締めの累積的影響による景気の軟化や、中国経済、あるいは地政学リスクへの懸念によって金利上昇に歯止めがかかり、それを受けて株価の不安定さのうち、金利上昇を要因とする部分は解消していくと思われれます。その後は、景気減速の程度を見極めながら、金利は徐々に低下、株価は一進一退と考えます。そして、現在のコンセンサスである景気のソフトランディングが見込めるような状況になってくれば、株価も出直り局面に移行すると予想します。なお、米国政治の混乱も最近の不安定な市場の一因と思われれますが、下院議長が選出されたことは幾分安心感を与える材料になりそうです。

#### 米国主要株価指数

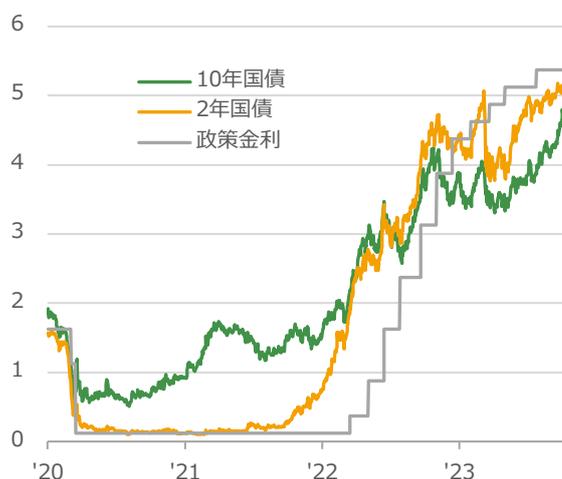
(起点=100) (2020年1月初～2023年10月26日)



(出所) ブルームバーグ

#### 米国債利回り・政策金利

(%) (2020年1月初～2023年10月26日)



※政策金利は誘導目標レンジ中心値(決定日ベース)

(出所) ブルームバーグ

#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。